

令和5年度

劇場・音楽堂等活性化・ネットワーク強化事業

(地域の中核劇場・音楽堂等活性化)

成果報告書

団 体 名	公益財団法人千葉県文化振興財団	
施 設 名	千葉県文化会館	
助 成 対 象 活 動 名	公演事業・人材養成事業・普及啓発事業	
内 定 額 (総 額)	30,044	(千円)
	公 演 事 業	8,810 (千円)
	人 材 養 成 事 業	17,174 (千円)
	普 及 啓 発 事 業	4,060 (千円)

1. 事業概要

(1) 令和5年度実施事業一覧【公演事業】

番号	事業名	主な実施日程	概要 (演目、主な出演者、スタッフ等)	入場者・参加者数(人)	
		主な実施会場		目標値	実績値
1	【国内外の劇場連携】千葉県少年少女オーケストラ第28回定期演奏会(東京芸術劇場公演)	令和6年3月31日	指揮：井上道義 音楽監督：佐治薫子	目標値	1,000
		東京芸術劇場 コンサートホール		実績値	1,787
2	【4館連携】クラシック・シリーズクアルテット・エクセルシオ 東総公演	令和6年2月23日	出演：クアルテット・エクセルシオ	目標値	190
		千葉県東総文化会館 小ホール		実績値	137
3	【4館連携】ミュージカル・シリーズ劇団四季ファミリーミュージカル「人間になりたがった猫」	令和5年8月13日	出演：劇団四季キャスト	目標値	700
		千葉県南総文化ホール 大ホール		実績値	1,097
4	【4館連携】伝統芸能シリーズ邦楽四重奏団 青葉公演	令和6年2月24日	出演：邦楽四重奏団	目標値	300
		青葉の森公園芸術文化ホール		実績値	142
5	【4館連携】ダンス・シリーズ ちばでおどれば! & KUUKI	①令和5年8月11日 ②令和5年11月12日	①ベイビーシアター「KUUKI」 出演：かとうかなこ、松田紀子、はらだまほ ②ちばでおどれば! 出演：中村蓉(演出・振付)、武井琴、谷平絵梨、渡邊華蓮	目標値	60
		①青葉の森公園芸術文化ホール ②四街道市文化センター大ホール		実績値	105
6	【オールちば連携】クラシック・シリーズ森麻季&N響のメンバーによる弦楽五重奏	令和5年11月25日	出演：森麻季(ソプラノ)、山岸茂人(ピアノ) NHK交響楽団(弦楽五重奏)	目標値	500
		佐倉市民音楽ホール		実績値	648
7	【オールちば連携】演劇シリーズフランドン農学校の豚～注文の多いオマケ付き～	令和5年10月22日	出演：荒井志郎、大野朱美、和田裕太、塚本淳也、小玉雄大、伊島青	目標値	350
		君津市民文化ホール 中ホール		実績値	333

※ …新型コロナウイルス感染症の影響があったもの

(2) 令和5年度実施事業一覧【人材養成事業】

番号	事業名	主な実施日程	概要 (演目、主な出演者、スタッフ等)	入場者・参加者数(人)	
		主な実施会場		目標値	実績値
1	千葉県少年少女オーケストラ育成事業	令和5年4月4日～ 令和6年3月31日	音楽監督：佐治薫子	目標値	160
		青葉の森公園芸術文化ホール 他		実績値	160
2	若手演奏家育成事業 第36回若い芽のαコンサート	令和5年7月15日	指揮：山下一史 管弦楽：千葉交響楽団 ソリスト：坂口由侑(ピアノ)、吉田智就(ホルン)、平塚七衣(フルート)	目標値	1,100
		市川市文化会館 大ホール		実績値	1,403
3	【4館連携】伝統芸能スコラ 「かぶきを楽しもう! ～お囃子編～」(東総)	令和5年8月27日	出演：鳳聲晴久、堅田喜三郎、望月左太助、堅田崇(邦楽囃子方)	目標値	200
		千葉県東総文化会館 大ホール		実績値	41
4	【4館連携】伝統芸能スコラ 「かぶきを楽しもう! ～舞踊編～」(青葉)	令和5年8月19日	出演：鳳聲晴久、杵屋和吉、杵屋勝国悠、堅田喜三郎(邦楽囃子方)他、	目標値	200
		青葉の森公園芸術文化ホール		実績値	101
5	【4館連携】ちば演劇プロジェクト 演劇発見ワークショップ	令和5年10月7日～ 令和5年11月23日	講師：小笠原響(演出編)、乗峯雅寛(舞台美術編)、イカラシヒロコ(衣裳デザイン編) 他	目標値	20
		青葉の森公園芸術文化ホール		実績値	17
6	【オールちば連携】伝統芸能スコラ 「かぶきを楽しもう! ～お囃子編～」(市原)	令和5年8月6日	出演：鳳聲晴久、堅田喜三郎、望月左太助、堅田崇(邦楽囃子方)	目標値	200
		市原市市民会館 大ホール		実績値	55

※ …新型コロナウイルス感染症の影響があったもの

(3) 令和5年度実施事業一覧【普及啓発事業】

番号	事業名	主な実施日程	概要 (演目、主な出演者、スタッフ等)	入場者・参加者数(人)	
		主な実施会場		目標値	実績値
1	【4館連携】日本音楽財団協定プログラム ヴェロニカ・エーベルレ ヴァイオリンリサイタル	①令和5年9月11日 ②令和5年9月12日	出演：ヴェロニカ・エーベルレ（ヴァイオリン）、山田武彦（ピアノ）	目標値	800
		①千葉県東総文化会館 ②千葉県南総文化ホール		実績値	978
2	【4館連携】はじめてのフルート	①令和5年7月22日 ②令和5年8月20日	講師：ムラマツレッスンセンター 講師3名 他	目標値	40
		①千葉県南総文化ホール ②千葉県東総文化会館		実績値	54
3	【4館連携】伝統芸能スコラ「うみをこえて」篠笛とピアノ&アコーディオン〈アウトリーチ〉	令和5年12月11日	出演：鳳聲晴久（笛）、大口俊輔（ピアノ・アコーディオン）	目標値	60
		南房総市立千倉小学校		実績値	157
4	【4館連携】伝統芸能スコラ「うみをこえて」篠笛とピアノ&アコーディオン	令和5年8月11日	出演：鳳聲晴久（笛）、大口俊輔（ピアノ・アコーディオン）	目標値	120
		青葉の森公園芸術文化ホール		実績値	60
5	【オールちば連携】おやこdeオペラ「シンデレラ」～0歳でもOK!みんなが楽しめる歌芝居～（県内劇場巡回）	令和5年7月22日～ 令和5年9月10日	出演：二期会BLOC千葉所属声楽家、相田久美子（ピアノ）	目標値	1,950
		青葉の森公園芸術文化ホール 他		実績値	2,306
6	【オールちば連携】いっしょにオペラ～幼稚園児・保育園児対象～〈アウトリーチ〉	令和5年6月26日～ 令和5年7月13日	出演：二期会BLOC千葉所属声楽家、渡辺絢星（ピアノ）	目標値	400
		千葉県内 幼稚園・こども園		実績値	1,118
7	【オールちば連携】オーケストラとあそぼう!〈アウトリーチ〉	令和5年11月10日～ 令和6年3月21日	出演：辻博之（ピアノ・演出・編曲）他	目標値	2,000
		千葉県内 幼稚園・こども園		実績値	2,276
8	【オールちば連携】わがっきとあそぼう!〈アウトリーチ〉	令和5年11月7日～ 令和5年12月18日	出演：望月太左乃、山口晃太郎（邦楽囃子方）、石森裕也（笛）、沖政一志（箏曲）	目標値	300
		千葉県内 幼稚園・こども園		実績値	375
9	【オールちば連携】ちば文化資産&観光地〈アウトリーチ〉	①令和5年5月3日 ②令和6年2月4日	①房総のむらアウトリーチコンサート 出演：邦楽四重奏団 ②地球の丸く見える丘展望館コンサート 出演：クアルテット・エクセルシオ	目標値	200
		①千葉県立房総のむら ②地球の丸く見える丘展望館		実績値	377
10	【オールちば連携】ジェフ色のなつ、WEリーグプレイベント（地元プロスポーツチーム『ジェフユナイテッド市原・千葉』との連携）	令和5年8月6日	出演：D. K. D. Company	目標値	4,000
		ジェフユナイテッドクラブハウス		実績値	18
11	【国内ホール連携】ミュージック・ワークショップ 森の王様のフェスタ	令和5年11月3日	出演：磯野恵美、野口綾子	目標値	20
		青葉の森公園芸術文化ホール		実績値	24

※ …新型コロナウイルス感染症の影響があったもの

2. 自己評価

(1) 妥当性

自己評価
<p>ミッション（社会的役割等）・ビジョンや地域の特性等に基づき、事業が適切に組み立てられ、当初の予定通りに事業が進められていたか。</p>
<p>1. 事業計画の組み立て方 （ミッション、ビジョン、地域特性・ニーズ、施設の強み・特色と各事業の連関について） 当劇場は、千葉県の条例に基づく「福祉向上」や「文化の発展」に資することを目的として設立され、「文化資源の活用」「新たな文化を掘り起こす」ことによって「千葉県に対する愛着や誇りを育み、活力に満ちた地域社会の形成に貢献する。」ことを目指している。 ミッション・ビジョンについては、令和3年度から指定管理期間（5年間）を見据えて構築した。 <u>ミッション：ちばの強みを生かした新しい「ちば文化」を県民とともに創造する。</u> <u>ビジョン：「魅せる」「創造する」「広げる」劇場によって千葉県を元気にする。</u> 特に心血を注いでいる鑑賞機会の格差解消・文化芸術の担い手不足に焦点を当て、地域特性・ニーズを導きの糸として設定した4つの戦略に基づいた事業展開を図った。 [ニーズ=千葉県民の声] 1：「新たな文化芸術の担い手となる子ども・若者が文化芸術にふれる機会を創出する」 2：「特に、子ども・若者が『伝統芸能』に触れる機会を創出する」 3：「公演、展覧会、芸術祭などの文化事業の充実」 4：「鑑賞機会の拡大」（地域、障害の有無、年齢等に関わらず） [4つの戦略] 1：千葉県の文化振興を担う若者及び専門人材の育成 公演1／人材1,2,3,4,5,6,7 2：県立文化会館を千葉県の文化振興の拠点として活用【4館連携事業】公演2,3,4,5／人材3,4,5／普及1,2,3,4 3：各種団体との連携・協働【オールちば連携事業】公演1,6,7／人材6／普及5,6,7,8,9,10,11 4：県内の貴重な文化資源の活用と継承 公演4／人材3,4,6／普及3,4,8,9 2. 当初の予定通りに事業が進められたか ・助成対象事業は合計24事業で、上述のニーズを踏まえ、地域、障害の有無、年齢等に関わらず鑑賞機会を充実させることを念頭に「公演事業」を7事業、青少年の育成、文化芸術の担い手不足という地域社会課題の解決に挑む「人材養成事業」を6事業、様々な年代の方が文化芸術を体験・参加するきっかけとなるような機会を創出し、文化活動の裾野の拡大を目指す「普及啓発事業」を11事業実施した。 以上、助成対象事業24事業を実施。当初の予定通りに事業を進められた。</p>
<p>助成に値する文化的、社会的、経済的意義等が継続して認められるか。</p> <p>・4つのニーズの根拠となった千葉県が実施したアンケートによると、「文化施設に足を運ばない理由」の第1位は、「仕事・育児・介護など忙しく鑑賞に出かける時間がない」であった。「ライフスタイル」に合わせた事業が必要であるという観点から、0歳でも参加できる公演として「クアルテット・エクセルシオ」「邦楽四重奏団」「伝統芸能スコラ」「ベイビーシアター『KUUKI』」「ミュージック・ワークショップ」を実施。定番となっている「おやこdeオペラ」やオリジナルダンス作品「ちばでおどれば！」は「市町の文化施設」が抱える「予算確保、職員ノウハウの不足」などの課題解決に向け、県内各地域で展開した。財団が蓄積してきた運営の経験を他の劇場や県民に還元することにより、地域文化の底上げが行われ事業の水準が高まるなど波及効果のループを形成している。</p> <p>・千葉県文化会館は大規模改修工事のため休館中（令和5年4月から2年数か月）だが、市町のホールが抱える課題、地域の課題解決の視点から、財団が有するネットワーク、ノウハウ、人的、物的資源を投入しつつ両社の持ち味を生かして地域を元気にする事業を展開したことから「文化的意義」が認められる。</p> <p>・全県域を網羅した文化振興への取り組みとして「4館連携事業」「オールちば連携事業」を実施。令和5年度は洋楽・邦楽の四重奏団をはじめオリジナル企画を制作。クラシック音楽、邦楽、歌舞伎（舞踊・お囃子）、ダンスの公演を県立文化施設4館や市のホールで巡回させることによって、あらゆる人々が文化芸術に触れ、鑑賞する機会の創出（鑑賞機会における地域格差）という諸課題解決の一助となるよう努めた。また、特定の分野に偏ることなく、子供たちが文化芸術に親しむための多様なチャンネルを設け、次世代への文化芸術の「創造・発展・継承」を目指したことから「社会的意義」が認められる。</p>

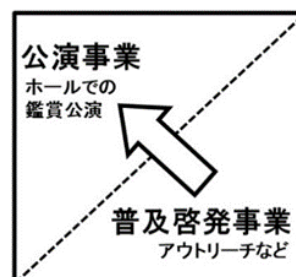
(2) 有効性

自己評価

目標を達成したか。

1. 目標・指標設定の考え方

県が実施したアンケート「県が抱えている課題」（鑑賞機会の格差解消、文化芸術団体の担い手不足）と「ニーズ」（子供たちが文化芸術に親しむ機会の充実）をベースに組み立てた当館の企画を「公演事業」「人材養成事業」「普及啓発事業」に割り当てて計画を立て目標を設定。「新たな文化芸術の担い手となる子ども・若者が文化芸術にふれる機会を創出する」、「県内あらゆる地域における鑑賞機会の拡大」という目的で、「0歳も入場可能」とする事業も制作した。「仕事・育児・介護など忙しく鑑賞に出かける時間がない」という声にも応え『普及啓発事業』で創客の種をまき、やがて『公演事業』に運んでいただけるストーリー」（右図）によって展開した。



(1) 公演事業

【目標1】新たな文化芸術の担い手となる子ども・若者が様々な文化芸術に触れる機会を拡大・充実させる。（公演1～7）

【目標2】子ども・若者が伝統芸能に触れる機会を創る。（公演4）

【目標3】「魅力ある公演鑑賞機会」の拡大1：地域、障害の有無、年齢、国籍等にかかわらず「公演鑑賞」ができる仕組みをつくる（公演1～7）

【目標4】「魅力ある公演鑑賞機会」の拡大2：仕事、育児、介護など忙しく鑑賞にでかける時間がない方も「公演鑑賞」ができる仕組みをつくる（公演2, 4, 5）

(2) 人材養成事業

【目標1】〈担い手育成〉千葉県少年少女オーケストラの育成強化（事業番号1）

【目標2】〈専門人材の育成〉実演芸術家の継続的支援（「若い芽のαコンサート」出演者）（事業番号2）

【目標3】〈担い手育成〉伝統芸能に興味を持つ子ども・若者の増加（事業番号3, 4, 6）

【目標4】〈担い手育成〉演劇に興味を持つ子ども・若者の増加（事業番号5）

(3) 普及啓発事業

【目標1】新たな文化芸術の担い手となる子ども・若者が様々な文化芸術に触れる機会を拡大・充実させる。（普及1～11）

【目標2】子ども・若者が伝統芸能に触れる機会を創る。（普及3, 4, 8, 9）

【目標3】「魅力ある普及啓発事業」を制作する。地域、障害の有無、年齢、国籍等にかかわらず、また仕事、育児、介護など忙しく鑑賞にでかける時間がない方などあらゆる方が「舞台芸術」に触れる機会を創出する。（普及1～11）

2. 指標の達成状況

(1) 公演事業

【目標1】に対しては、0歳から楽しめる「クアルテット・エクセルシオコンサート」をはじめ、子どもたちが質の高い芸術に触れられる公演を制作。【指標1】アンケートにおける満足度90%以上、【指標3】子ども・若者の鑑賞者数ともに高水準で達成した。

【目標2】に対して設定した【指標1】、【指標3】ともに高水準で達成。【指標2】各公演の鑑賞者数についても、十分な広報の結果、概ね目標値を上回ることができた。

【目標3】と【目標4】に該当する【指標4】について、視覚障がい者にも配慮した音声コード付きチラシを対象事業に100%採用。外国語版チラシやパンフレットの作成を行った。また、0歳から入場可能な公演を制作し、育児中の保護者も気兼ねなく鑑賞できるような仕組みづくりを行い、公演をYouTubeで配信することで会場に足を運べない方でも鑑賞できる取り組みも実施した。

(2) 人材養成事業

【目標1】に該当する【指標1】入団員希望者の増は、数値目標35名を達成することができた。

【目標2】に該当する【指標2】「若い芽のαコンサート」出演者の継続した支援は、4事業を企画・実施し、数値目標である「2事業の企画・実施」を上回ることができた。

【目標3】と【目標4】に対しては、【指標4】子ども・若者の満足度100%を達成した。

(3) 普及啓発事業

【目標1】に対して、0歳から入場可能なコンサート、県中央部以外でも質の高い芸術に触れられる公演を開催し、【指標1】アンケートにおける満足度90%以上、【指標2】子ども・若者の入場率ともに高水準で達成した。

【目標2】幼稚園・中学校に訪問する邦楽のアウトリーチコンサートや、県内の観光地で気軽に楽しめる公演など伝統芸能を身近に感じてもらえる公演を制作し、【指標1】、【指標2】ともに達成した。

【目標3】に該当する【指標3】子ども・若者を対象とした公演数は50公演で、数値目標40公演を上回った。また、【指標3】子ども・若者の満足度も100%を達成した。

(3) 効率性

自己評価

アウトプットに対して、事業期間が適切で、当初の計画通りに進んだか。

(1) 「公演事業」

・事業番号1「千葉県少年少女オーケストラ定期演奏会」は、拠点である千葉県文化会館の改修工事という逆境をチャンスに変え、1年間の活動の集大成として「東京公演」を実施。広報・宣伝から実施に至るまで計画通り進み、券売についても完売で予定通り開催することができた。事業番号2,3,4,6,7においても、今年度はコロナウイルスの影響を受けず、フルキャパシティで、広報・宣伝から実施に至るまで当初の予定通り進捗した。

・事業番号5の「ダンス・シリーズ ちばでおどれば!」については、要望後に再考を行い、夏休み期間中に子ども向けのダンス公演を実施するため、2館で実施するうちの1館の演目を「ベイビーシアター『KUUKI』」に変更。普及啓発事業4の「うみをこえて」と同日に開催した。

(2) 「人材養成事業」

・事業番号1の千葉県少年少女オーケストラの育成は、コロナ禍を経ても年間約110回の練習を維持し、とくに助成金によって一流のトレーナー陣を配ることによりきめ細かい指導を行い、サウンドに磨きをかけた。事業番号2は、千葉県出身の若手演奏家がプロオケの千葉交響楽団と共演する育成公演で、計画どおり実施した。事業番号3,4,6は、伝統芸能の担い手育成を目的とした企画の2年目で、「4館連携」「オールちば連携」事業として実施。子ども達は歌舞伎のお囃子の太鼓や鼓、舞踊のワークショップにも参加した。事業番号5は、3年かけて千葉を舞台にした完全オリジナル新作を上演するプロジェクトの初年度。演劇に興味のある30歳以下の若者を対象とし、演劇づくりの全容を「裏方スタッフ」の立場からとらえ、第一線で活躍するスタッフ陣を招き実際の仕事の一端を体験するワークショップを予定通り実施した。

(3) 「普及啓発事業」

・事業番号1は(公財)日本音楽財団との連携協定により実施。世界の文化資産と言われるストラディヴァリウスを貸与された若手演奏家を起用し、東部地域や南部地域でも世界最高峰の音色に触れるコンサートを計画通り開催。事業番号11は東京文化会館と連携し、普及啓発活動をより充実させるために、世界的にも先駆的な音楽ワークショップを実施。事業番号5,0歳から入場可のオペラ鑑賞公演も当初の計画通り県内6か所で実施。事業番号3,6,7,8,9の県内全域で展開するアウトリーチコンサートは日程調整をしつつ全て実施した。

・事業番号10、プロサッカーチーム「ジェフユナイテッド市原・千葉」との連携については、文化とスポーツ双方の振興を図ることを目的とし、ジェフユナイテッドの拠点に向いてアウトリーチコンサートを開催した。以上、事業期間が適切で、ほぼ計画通り進んだと考える。

アウトプットに対して、事業費が適切で、当初の計画通りに進んだか。

事業費「収支決算」(要望時と実績報告時における助成対象経費を比較)

(1) 公演事業

事業番号	1	2	3	4	5	6	7
事業名	オケ定期	クワルテット	劇団四季	邦楽四重奏	ちばでおどれば	森&N響	フランドン
要望→実績	66.3%	102.1%	91.8%	89.3%	54.8%	73.2%	74.0%

(2) 人材養成事業

事業番号	1	2	3	4	5	6
事業名	オケ育成	若い芽	伝統芸能 東総	伝統芸能 青葉	演劇WS	伝統芸能 市原
要望→実績	85.4%	75.9%	69.7%	103.7%	59.4%	70.1%

(3) 普及啓発事業

事業番号	1	2	3	4	5	6
事業名	ヴェロニカ	フルート	うみをこえて(7才)	うみをこえて	おやこdeハウ	いっしょにハウ
要望→実績	63.6%	44.5%	45.5%	60.3%	86.2%	82.8%
事業番号	7	8	9	10	11	
事業名	竹あそ	わがっき	観光地	ジェフ	森の王様	
要望→実績	80.4%	71.5%	112.8%	29.6%	89.9%	

上記の表から、要望時に比して対象経費が減少した事業が見られる。千葉県文化会館が休館中のため、都内での公演や県中心部以外での実施となったが、収入が当初の見込みより増えたことによって、宣伝費や広報に係る人件費等が予定していた額から縮小した。(概ね収入は自己負担(指定管理料:指定管理期間5年間定額)並びに入場料・参加料収入から成っている。)

(4) 創造性

自己評価

地域の文化拠点としての機能を最大限に発揮する優れた事業であった（と認められる）か。

千葉県文化会館が令和5年4月から大規模改修工事期間に入ら中でも、他の3つの県立文化会館を軸にした【4館連携事業】、全地域の劇場等との連携による【オールちば連携事業】を一層強化し、日本や西洋の伝統的な文化芸術に加えて、変化する芸術表現、多様化する価値観や生活様式に応じるために、固定観念にとらわれない文化芸術の関わり方や楽しみ方を創造した。

1. 機能を最大限に発揮するための資源

(1) 劇場を象徴する人物、鍵となる人物（キーパーソン）の存在（舞台芸術に関する責任者等の役割）

・音楽監督（長い間小・中学校で音楽の教師を務め、合奏のコンクールで優秀な成績を収めてきた）が結成以来28年間「千葉県少年少女オーケストラ」を牽引している。「文化振興」と「青少年の育成」という目的のもと、最高の演奏を聴衆に届けるために、上級生は下級生のお手本になるための研鑽、下級生は上級生の演奏を聴き「良い音」を学ぶ、人間形成をも含め、この輪と和によって伝統のサウンドを継承してきている。

(2) 専属団体、フランチャイズ団体、提携団体の存在

・千葉県少年少女オーケストラは、平成8年に都道府県レベルでは全国初となるジュニアオーケストラとして結成。県内在住または通学する10歳から20歳まで160名の団員が「良い音で、良い演奏を」をモットーに練習、演奏活動を続けている。楽団は、県内はもとよりサントリーホールや、アメリカ、ドイツ、ブルガリア、韓国などでも演奏を行い、広く発信を続けている。

・「おらがまちのオーケストラ」を掲げるプロオーケストラ「千葉交響楽団」は当劇場を拠点として活動し「若い芽のαコンサート」をはじめ、多数の公演を協働で実施している。

・地域の音楽振興に対する考えや担い手育成の取り組みにおいて共通点を有する（公財）日本音楽財団とは、連携協定を締結し新しい展開を図っている。令和5年は県立文化会館2会場でストラディヴァリウス貸与者のコンサートを開催。地元の中学生を招待し、青少年が質の高い音楽に触れる機会を設けた。

2. 機能を最大限発揮する事業として優れているか

(1) 千葉県少年少女オーケストラの活動

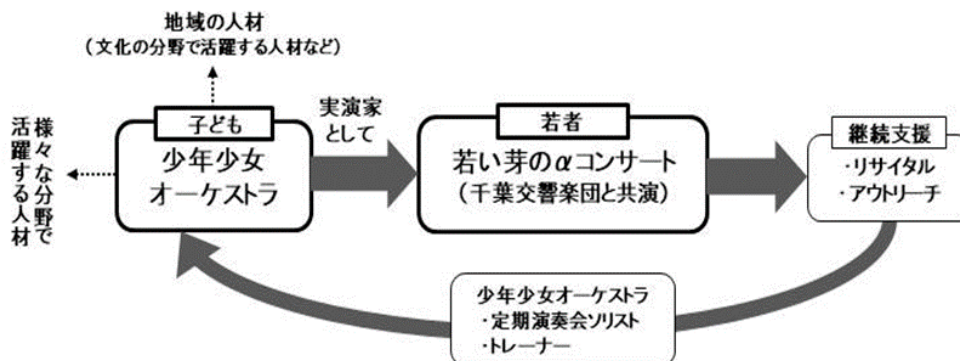
・音楽監督を中心に活動を行い、コロナ禍以降も継続して活動できたことで、学校の枠を超えた環境の中、幅広い年齢の仲間とともに、優れた指導者や世界的指揮者のもとで学び、演奏技術だけではなく人としても成長した。その貴重な経験は、学校での生活や部活動を通して団員以外の子どもや若者の意識や演奏技術の向上につながると考える。卒団生が指導者となり後輩の指導に当たることや演奏家として活躍することで、学びの継承や音楽活動のよりよい循環など様々な波及効果がもたらされている。

・1年間の集大成である3月31日の定期公演では、井上道義氏が指揮を務めた。これまで数多くの演奏会や海外公演においても共演し、実力を高く評価いただいている。また、千葉県少年少女オーケストラを熟知しているため、演奏技術のレベルをより磨くことができ、人材養成事業としての結果を残すことができた。

(2) 「人材養成事業」における「『循環』による人材育成」

・千葉県の文化振興を担う若者及び専門人材の育成については、例えば下図（音楽分野の例）にみられるように人が「循環」しながら（子どもから大人までいつまでも途切れることなく）成長していくイメージで人材養成を行っている。

・今年度の成果としては少年少女オーケストラ 0B（ホルン奏者）が国内のコンクールで上位入賞し、「若い芽のαコンサート」（人材養成事業2）に出演。少年少女オーケストラ→国内外のコンクール受賞→「若い芽（プロの楽団とコンチェルト）」→「プロとしてのステップアップ」というサイクルを実践している。



以上のことから、地域の文化拠点としての機能を最大限に発揮する優れた事業であったと認められる。

自己評価

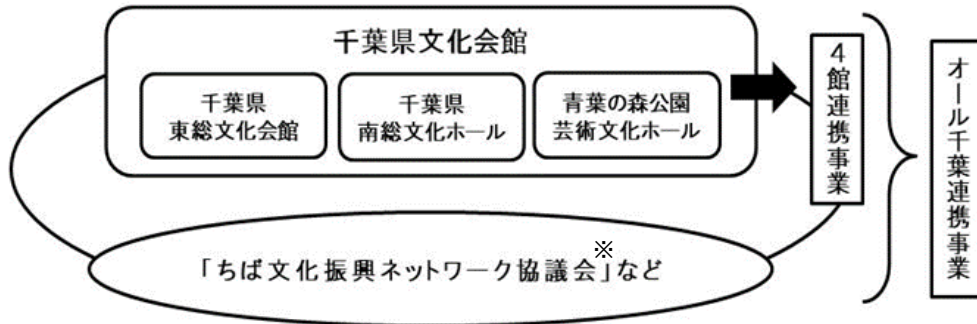
地域の実演芸術等の振興など、地域の文化芸術の発展につながった（と認められる）か。

具体的な事象

1. 「4館連携&オール千葉連携事業」

上述している通り、千葉県文化会館の休館中に伴い、当劇場が中心となって仕掛ける「4館連携」「オールちば連携」事業を強化。

県内6か所を巡回した「おやこ de オペラ」（普及啓発事業5）は、「(1) 妥当性」で述べたとおり「市町の文化施設には予算確保、職員・ノウハウの不足」などの理由で公演の実施が難しい地域も多いという課題を解決する具体的手法として確立できた。結果、各地域の文化施設からも好評で、次年度も是非連携したいという声もあり、また新たに開催を希望する施設もでてきたことから、文化施設に刺激を与え、県内全体の文化度向上にも貢献できたと考えている。

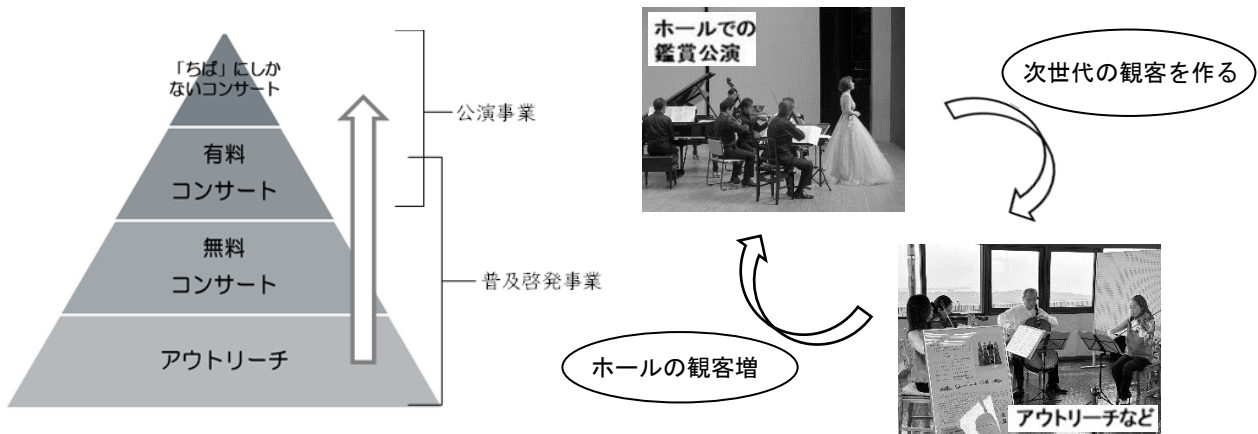


※県内12の文化振興財団が個々に持つ専門的ノウハウや経験、情報をネットワーク化し、合同で文化事業・広報活動を行い、県全体の文化振興の向上意を図る機関

2. 「公演事業」と「普及啓発事業」の「循環」による鑑賞者増

ほぼ全ての公演に、U-30（30歳以下）のチケットや小中高生ワンコイン（500円）のチケットを設定。「0歳から入場可能」とした公演も多く、子育て中の保護者でも気兼ねすることなく参加できるようにした。公演アンケートでは「子どもと一緒に楽しむことができました。」「歌舞伎舞踊の体験では子どもが楽しそうに踊っていて、参加させてよかったです。」などの意見を多数いただいた。

また、観光地や博物館と連携したアウトリーチコンサートを開催。「千葉県立房総のむら」で「邦楽四重奏団」のコンサート（普及啓発事業9）を行った際には、会場のコンセプトと明治時代における邦楽の歴史背景をマッチングさせた企画とした。訪れた来館者に演奏を楽しんでもらうことにより、文化芸術の裾野拡大を図った。



3. 千葉県少年少女オーケストラの演奏会

1年間の集大成である定期演奏会は、日本を代表するコンサートホール「東京芸術劇場」を会場に、クラシックの名曲、ベートーベンの交響曲第5番「運命」を取り上げ、満席の中で至高のアンサンブルを披露、来場者アンケートからは「非の打ち所がない演奏でした。」「井上先生から上手とは聞いていましたが、ここまで素晴らしい演奏とは驚きです。」など、好評の声が多数寄せられ、専門家からも音楽性と技術力が高く評価された。また、テレビ・ラジオ放送も行い、劇場に足を運べない県民にも音楽を楽しんでもらうことができた。

以上、地域の実演芸術等の振興など、地域の文化芸術の発展につながったと認められる。

(5) 持続性

自己評価

事業を通じて組織活動が持続的に発展する（と認められる）か。

「今後も組織活動が持続的に発展するか」事業運営、経営戦略、人事戦略、ネットワークの構築の観点から

1. 事業運営

・専門家集団であると同時に、ジョブ・ローテーションによって職員が施設管理や総務の業務、企画・立案の業務、さらには舞台技術業務を経験することによって、総合的な劇場マネジメントの能力を養っていることも強みであるとする。

・妥当性で述べたミッション・ビジョンに基づき年度の実施計画（Plan）を策定し、文化事業、管理事業、経営の実施（Do）、進捗状況の管理・調査や評価の実施（Check）、次年度に向けた改善（Action）のサイクルで組織活動を行っている。意思決定機関の幹部会をトップに、特に（check）にも重点を置き、月1回経営戦略会議を行い組織活動の検証を行っている。現場では部署を横断した「委員会」を設置（全職員がいずれかの会に参加）して諸課題（事業〈特に4館連携企画〉）の企画立案、広報、安全管理）の具体的解決に向き合っている。

・「音楽」「演劇」「舞踊」「伝統芸能」の各分野に精通した職員を揃え、舞台関係の有資格者（舞台機構調整技能（音響）や1級照明技術者、1級劇場技術者）も配置して、幅広い分野やジャンルの企画制作を行っている。

・令和3年度からは「アートマネジメント・アドバイザー※」を設置し、事業におけるPDCAサイクルを確立。令和4年度から刊行した広報誌「Mille feuilles」の助言や公演調査による事業評価、ファンドレイジングに関する研修などを行っている。

※職員と伴走しながら助言・評価を行い、職員自らが専門性を高め、組織活動を発展させることを目的とし外部から招へいた専門家。①広報・宣伝・営業 ②ファンドレイジング ③文化サービス ④アートマネジメント/他分野 ⑤施設全般 ⑥舞台技術の6ジャンルから成る。

2. 経営戦略

・「経営計画書」に基づく安定の経営が出来ている。「指定管理料の確約」「協賛金・寄付金の獲得」「広告料・手数料」「県主催事業の受託」といった収入増と経費削減の工夫をしつつ、利用者の安全を第一としたサービスを充実させている。

・経営計画に基づく無駄を省きつつ無理のない範囲での効率的な経費節減に努め、光熱水量の使用料節約を行う一方で、収入増加に向けたファンドレイジング活動、設置者からの指定管理料、メセナ支援によって、安定した経営基盤の確立にも努めた。また、公益財団法人の優遇税制措置を活かした寄付金の獲得、国や県、民間助成団体などからの助成金の獲得にも取り組んだ。

3. 人事戦略

・職員は、千葉県文化振興を担う専門知識を有するプロフェッショナルであるとの自覚をもち、「劇場・音楽堂は人材により成り立つ」という共通認識のもと、人材育成と組織の活性化に特に注力している。OJT、OFF-JTなど、様々な研修内容を体系的に分けて効果的に実施し、知識や技術、アートマネジメント能力を向上させ職員残体のスキルアップに努めた。これら研修等の実施は63件、参加人数は延べ235名に及ぶ。さらに、メンター制度を取り入れ、先輩職員が後輩職員をサポートすることで「働きやすい・働きがいのある」職場づくりにも取り組んだ。

4. ネットワークの構築

・これまで述べてきた様に、「4館連携事業」「オール千葉連携事業」をはじめ文化施設、博物館、美術館、企業、大学などとは強固なネットワークを構築している。

・令和4年から（公財）日本音楽財団との連携協定を結んでおり、地域における音楽振興を目的として、若手のストラディバリウスの被貸与者によるコンサートを開催。令和6年度は被貸与者、レイチェンと千葉県少年少女オーケストラの定期公演、サントリーホールでの共演などさらなる連携の充実を目指します。

・県内公立文化施設のリーダーという意識から、国や県の文化施策、施設の改修といった課題に関する情報提供、助言を積極的に行っている。

以上、事業を通じて組織活動が持続的に発展すると認められる。